

# 中退から「18の春」

卒業課程 「私たちが変わった」



進路に迷い、一度は学校をドロップアウトした高校生四人が二十九日、無事に卒業の日を迎え、人生の新たな一歩を踏み出した。不登校などで通信制高校へ通う生徒のサポートをしている八戸市の「ウイング高等学院」（畑山篤学院長）で、初めてとなる卒業式。社会とのかかわりが希薄になっていた生徒もいて、四人は「お世話になった人への感謝を忘れず、頑張っていた」と新天地での活躍を誓った。

卒業したのはいずれも「学校がつまらなく十八歳の高島純平君、松村邦広君、坂本一真君、村邦広君、坂本一真君、な理由で最初の高校を中退した。山祐未さん。四人は「やりたいことが変わっただけだ、このままではいけない」との思いから、通信制高校のサポート校である同学院の門をたたき、日本航空高校（山梨県）の通信課程に入学。

同学院講師のサポートを受けて単位を取得、晴れて卒業の日を迎えた。卒業生スピーチで松村君は「修学旅行が楽しかった」と笑顔で振り返った。山祐未さんは「学院に入学会ったことで、人に出会ったこと、人とかかわりを持てるようになった」と、以前と変わった自分自身に驚いている様子。

あまり人と話すのが好きではなかったという坂本君は、クラスメイトとの触れ合いの中で会話を楽しめるようになったという。「焦らず、自分のペースで頑張っていた」と後輩へエールを送った。

不安も多々あった。高島君は「全日制の高校を辞めれば、進学や就職に不利になるのではないかと中退時の心境を明かした。ただ、今はコンピュータ関係の仕事を目標として専門学校への進学が決まっており、将来のビジョンは明確だ。式の最後には初めてという、母校の校歌を全員で斉唱し、四人はそれぞれの目標に向かって新たなスタートを切った。